

⑩南海トラフ地震発生時の総合防災拠点と連携整備した一般国道56号大方改良

授賞機関 国土交通省 四国地方整備局 中村河川国道事務所

キーワード 地域防災計画との連携、道路縦断計画の見直し

全建賞審査委員会の評価ポイント

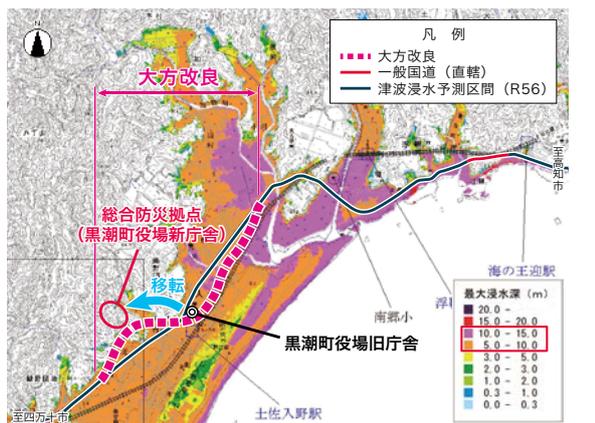
南海トラフ地震による被害が想定される地域における、地域住民の避難、迅速な救援・啓開活動等を支援する道路改良工事。町役場庁舎移転に伴う地域防災計画との計画調整を行い、新庁舎へのアクセス確保のため道路の縦断計画の見直しを行い、地盤対策など地域防災計画と連携した整備を行った点が評価された。

1. はじめに

内閣府及び高知県から公表された南海トラフ巨大地震による津波高の推計において、日本で最も厳しい推計値が示された高知県黒潮町では、「犠牲者ゼロ」の取り組みが推進されている。

東日本大震災後の平成24年に公表された【高知県版第2弾】南海トラフ巨大地震による震度分布・津波浸水予測においては、旧国道の最大浸水深が5.0～15.0mに見直された。黒潮町では津波浸水想定の見直しを踏まえ、地域防災計画を策定し、庁舎の高台移転とともに、総合防災拠点の整備が決定された。

このような背景の中、一般国道56号大方改良（延長2.4km）は、黒潮町役場の庁舎移転や総合防災拠点の整備などの地域防災計画と連携した整備を実施し、平成31年3月24日に全線が開通した。



最大クラスの津波浸水深想定（東日本大震災後）

2. 事業の概要

一般国道56号大方改良は、道路幅員が狭く、歩道が整備されていない区間が多い旧国道の課題を解消し、歩行者や自転車利用者の安全性向上を目的とした道路で平成11年に事業化した。

平成24年に【高知県版第2弾】南海トラフ巨大地震による震度分布・津波浸水予測の公表があったことから、未着手区間について、黒潮町の地域防災計画との計画調整を行い、総合防災拠点となる黒潮町役場新庁舎へのアクセス路の確保のため道路縦断計画を見直し、地震発生時の徒歩での避難と合わせ、車両での避難に対応するための液状化による地盤対策など、地域防災計画と連携した整備を行った。

3. 事業の成果

毎年、黒潮町で実施している総合防災訓練では、一般国道56号大方改良で整備した横断歩道橋や歩道を利用した避難訓練が実施されている。

参加者からは「広い歩道の利用により安全に避難できるようになった。」「高さのある歩道橋に上がれば高さがあり安心できるようになった。」などの声をいただき、避難時の地域住民の安全な移動経路を確保できるようになった。



黒潮町総合防災訓練時の避難状況

4. おわりに

一般国道56号大方改良による広い自転車・歩行者道の整備で、歩行者や自転車利用者は安全・安心な空間が確保されている。

また、多くの車両が新国道を利用するようになり、旧国道の歩行者や自転車利用者の安全性が向上したとともに、旧国道沿道の騒音が減少し、沿道住民の生活環境が改善するなど、安心できる地域生活に繋がっている。

賛助会員 (株)NIPPO、鹿島道路(株)、セントラルコンサルタント(株)、大日本コンサルタント(株)、復建調査設計(株)、(株)エイト日本技術開発